

潮音寺だより

<ホームページ> <http://www.ne.jp/asahi/choonji/namo/>

第 294 号
平成 20 年 4 月
電話 052-671-4831
ファックス 052-671-4856
E-Mail: choonji@aichi.email.ne.jp

〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬 1-10-11



色即色
空即空

【主筆】「般若心経」

撮影：疋田勝彦

我が身体
触ればあり

抓れば
確かに痛い

それど
「空」云々云々

因縁の法に
よるが故なり

諸縁をいただき
今の我はあり

縁が解ければ
無に還える

生あるかぎり
縁に感謝し

善き因を
善き種を蒔くべし

小楽と大楽

世界四大聖人といわれる方々には、不思議と一つの共通点があります。釈尊は、生後一週間で、母の摩訶と死別されています。イエス・キリストの母はマリヤ、父はヨセフと伝承されますが、実父ではなく養父です。孔子も、幼くして両親を失っておられます。ムハンマド（マホメット）も、父は彼の誕生する数ヶ月前に死に、母も幼い頃に亡くされています。

また、我が浄土宗祖法然上人も、九歳のとき、夜討によって父を失っておられ、曹洞宗祖道元禪師も幼くして両親を亡くされているようです。やはり、そこには、失った親を超越した大いなる「法」「道理」「神」を希求せずにはいられなかった、凡人では計りがたい何か

があったのでありますまいか。

『阿育王経』に、面白い話が載っています。

両親にとても可愛がられていた一人の息子が、発心をして出家しようとして、ウバキクタ聖者の許に、弟子入りを申し出ました。聖者は彼が、愛の絆にほだされていることを見取り、出家を許すも一計を案じることにしました。

ひとまず、家に帰ることになった息子は、「家に帰れば、両親は私を離してはくれまい。出家が果たせなくなりはいまいか…」などと、思案しつつあたりを見ると、古びた神廟があったので、ここで一夜の宿をとることにしました。

聖者は、神通力でもって二人の羅刹鬼をこの社に遣わしました。

夜が、深々と更けた頃、ふと、異

様な物音に目覚めると、社の古い扉が開いて、二人の羅刹鬼が入ってきました。第一の鬼は、死人を抱いており、第二の鬼は空身であります。しばらくすると、大声でけんかを始めました。

「この死人は、おれが抱いできたものだから、おれのものだ。」
「馬鹿をいつな。これはおれのものだ。」

と、互いに譲らず、上を下への大げんかとなりましたが、互角の力で勝負がつかません。すると、にわかにはんかを止めて、縮み上がった隣の方で見ていた彼の前にやってきて、すごい形相で詰問しました。

「おい、この死人を抱いてきたのは誰だか、お前は見えていたな。さあ、どっちだ。さあ、いえ。」

彼は、「もし、事実をいえば、第

「一の鬼は私を殺すだろう。もし、うそをいえば、第二の鬼が殺すであらう。どのみち、死は免れまい…」と考え、覚悟を決め答へました。

「第一の人が持つてきた。」

かく聞くなりやいなや、第二の鬼は烈火のごとく憤り、彼の肘を引き抜きました。そして、それを食べようとしました。第一の鬼は、直ちに死人の肘を抜き取り、それを彼に付けて、元通りにしました。間髪入れず、第二の鬼は、彼の両足を引き抜きました。すると、第一の鬼が、またも死人の両足を抜いて、彼の足に挿げ替えました。

そうこうするうち、鬼たちはどうしたわけかけんかを止め、引き抜いた彼の両足を、むしゃむしゃ食い始め、明け方頃には、共に食い尽くして、社から出て行きました。

ここにおいて、彼は、父母に対して、世俗に対しての愛着の心が全く失せ、「一日を経て、聖者のところに帰り出家し、精進修行して、阿羅漢の位を得たといひます。……

さて、仏教では、法を知り得たときの喜びを「法悦」といい、それは信心による大きな利益であります。このようなことは、他の宗教でも同様なことがいえましよう。ただ、そのような喜びを得ることは、聖人の方々のような境遇や、先の話の縮み上がるような体験なくしては無理なことであったとしたら、せいぜい、金と健康、人並みの幸せに満足を求めようとしている多くの者にとつては、無縁なものといわざるを得ません。

しかし、もし、その片鱗だけでも法悦に預かりたい、信心を得たい

と思うならば、どうすればよいのでしょうか。

ささやかなる

たのしみを棄てて

若し 大きなる

たのしみを得んとせば

かしこき人は

彼岸の大樂をのぞみて

小さきたのしみを

すてさるべし

『法句經』一九〇番

ここで「小樂」というのは「酒色財名」の私欲を満たすことであり、「大樂」とは「願」をもつことであります。それは、善行を積むことでもあります。しかもさりげなく。また、他人の善行を助けること（随喜）であります。先ずは、真似事でもよい、始めることあります。

隠元

いんげん

「隠元豆」のこと。正式には「ゴガツササゲ」と呼ぶ。この種子を日本に持ち込んだのが、中国からの帰化僧隠元。彼は、江戸初期に、明の

福州からやってきて京都宇治に日本黄檗宗を開くのだが、同時に、予想だにもしない、豆の開祖ともなっていました。

ところが、現在一般的に隠元豆



舊替えになった阿弥陀堂



梁に描かれたのぼり龍

大進三の記念事業の一つとして、阿弥陀の梁などに描かれていた四百年前の絵・文様が、今、隠元されようとしています。



阿弥陀堂内部の絵・文様を再現

ご寄進をお願いいたします

一口 一万円

ご芳名は堂内に奉納し、後世に伝えます

雑記

と呼ばれている種類は、彼が持ち込んだものではなく、別属の関西でフジメと親しまれている種類。隠元の種子は広く行き渡らず、名前だけが広がったことになる。

《仏教のごとは『早わかり事典』

▼阿弥陀堂寄進

京都本山の阿弥陀堂の改修工事に伴い、上記の通り寄進の募集をしております。ご協力願います。寄進者芳名が、堂内に奉納されます。

・寄進金額 一万円（二口）

・募集期間 四月末日

▼春菓子

草餅・蕨餅・鶯餅・桜餅・椿餅等々、甘党には嬉しい季節です。

◆笑み満ちて盆

いっぱいのだんご、ゆい、